



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/19 (月)	+ 400	▲ 5,200	▲ 4,800	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 38,000		米: 休場
2/20 (火)	トン	▲ 2,000	▲ 2,000	国庫短期証券発行償還 (1Y)			米: 景気先行指標総合指数 (1月)
2/21 (水)	トン	▲ 17,000	▲ 17,000	国債発行 (20年) 各種財政資金の貸付回収	共通担保 ▲ 7,500	社債等買入 + 1,000	日: 貿易収支 (1月) 米: FOMC議事要旨 (1月30日・31日開催分) 欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (2月)
2/22 (木)	▲ 1,000	+ 14,000	+ 13,000	各種財政資金の支払い			欧: ユーロ圏CPI (1月)
2/23 (金)				天皇誕生日			

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債発行等により、前営業日対比5,000億円減少の53兆8,700億円から始まった。その後、国債買現先や年金の払い等の要因により、15日には54兆9,900億円まで増加したが、16日には、53兆7,200億円 (速報) まで減少し越週となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初▲0.005%から始まった。その後も取り手の調達意欲が底堅く同金利は横這いで推移した。新積み期初日である16日の同金利は調達サイドの様子見姿勢もあり、▲0.006% (速報) に低下した。

ターム物は1W~1M物を中心に▲0.010%~▲0.001%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、21日に貿易収支 (1月) の公表、海外では21日にFOMC議事要旨 (1月30日・31日開催分)、22日にユーロ圏CPI (1月) の公表などがある。

<レポ>

足許GCは週初▲0.07%で出会い始め、後場引けにかけて▲0.04%近辺まで上昇した。買い現先オベがオファーされた14日は▲0.06%~▲0.04%で推移。15日は▲0.095%~▲0.085%で取引され、週末には▲0.11%近辺まで低下した。SC取引は2年454~457回債、5年149~165回債、10年350~373回債、20年185~187回債、30年69~81回債、40年14~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,600億円で、週間償還額 (約1兆円) を上回った。発行市場は、石油製品や建設業等の業種にて大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は前週末の27兆5,177億円から15日時点で27兆4,254億円と減少した。発行レートは概ね0%近辺からベース台前半での出会いが中心であった。

来週の週間償還額は、約8,000億円となっている。発行市場は、祝日により営業日数が少なく、落ち着いたマーケットとなることを予想する。発行レートは、金融政策修正の警戒感等から、発行期間の長い銘柄等については上昇余地を探る展開が見込まれる。

<TDB>

16日の3M (1213回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1098% (前回債▲0.1109%)、平均落札利回り▲0.1157% (前回債▲0.1222%) となった。来週は、19日に1Yの入札、22日に3Mの入札が予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.010 ~ 0.010
2M	0.000 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.050